

令和2年度 神奈川県立磯子工業高等学校定時制 不祥事ゼロプログラム検証結果

神奈川県立磯子工業高等学校定時制は、不祥事の発生をゼロにすることを目的として、定められた不祥事ゼロプログラム次のとおり実施した。

1 実施責任者

磯子工業高等学校不祥事ゼロプログラムの実施責任者は校長とし、副校長、教頭、事務長がこれを補佐した。

2 令和2年度磯子工業高等学校の取組課題における目標及び行動計画

(1) 公務外非行の防止（法令遵守意識の向上）

ア 目標

公務外非行の防止徹底を図る。

イ 行動計画

公務員倫理意識の徹底などを推し進め、啓発資料を適宜配布して職員の法令遵守意識の向上を図った。特に、若手職員に対しては、管理職のみならず、学校全体で育成するという意識を職員に持たせ、基本的事項を繰り返し、徹底的に指導し、法令遵守意識の向上を図った。

(2) 体罰・不適切な指導、セクハラ・わいせつ行為の防止

ア 目標

生徒の人権を尊重し、体罰・不適切指導やセクハラ・わいせつ行為などの防止徹底を図る。

イ 行動計画

体罰・不適切指導に関しては、全体に対して日頃から繰り返し指導を継続するのはもちろんのこと、個別面談を適宜実施し教育公務員としての自覚とモラルの向上に鋭意努めた。また、啓発資料をもとに、所属職員全員を対象にした職場研修会を実施し、人権尊重の意識を高めた。携帯電話・電子メールの適切な使用については、周知を徹底した。

(3) 成績処理及び進路関係書類作成及び取り扱いに係る事故防止

ア 目標

成績処理及び進路関係書類作成及び取り扱いに係る事故の発生を未然に防止する。

イ 行動計画

定期試験実施や成績処理、進路関係書類作成の際に、マニュアルに従った適正な方法による業務遂行と確実な点検を徹底した。

(4) 適正な経理処理（備品の現物照合、公費・私費・現金管理）

ア 目標

会計業務の改善を進め、現金等の取扱いも含めた会計に係わる事故を未然に防止する。また、備品の現物照合を徹底する。

イ 行動計画

私費会計基準に則った会計業務を行い、事故の起きにくい方法を検討するとともに、所属職員を対象にした会計全般に係わる職場研修を不祥事故防止会議で行った。また、備品の現物照合については、点検を確実にし、台帳との現物照合を徹底した。

(5) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）

ア 目標

組織としての情報管理体制を構築し、個人情報の流出を未然に防止する。

イ 行動計画

個人情報の管理状況（パスワードの設定、誤廃棄防止）を適宜点検・確認を行った。携帯電話・電子メールの適切な使用について周知徹底した。また、指導要録・帳票等の適正な管理を行った。

(6) 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守

ア 目標

酒酔い・酒気帯びを含む交通違反・交通事故の発生を未然に防止する。

イ 行動計画

職員啓発資料などを活用し、所属職員全員を対象にした職場研修を実施した。

(7) 業務執行体制の確認（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）

ア 目標

情報共有、相互チェック体制、業務協力体制などを適切に推し進める。また、政治的中立性を厳守する。

イ 行動計画

業務執行体制を構築した。特に、入学者選抜業務における事故の防止を徹底した。また、地方公務員の服務規律の確保を徹底した。

(8) 不祥事防止に関する管理職による全職員対象の面談を実施するよう努めた。

3 令和2年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和3年度に取り組むべき課題（学校長意見）

事故不祥事の根絶は、職員一人ひとりが当事者意識を持ち、自らが主体的に考え、行動することが大事である。事故不祥事が他人事ではなく、誰にでも起こり得ることであるということを教職員に不祥事防止会議だけでなく、日頃から継続的に指導し、再認識させた。特に、若手、中堅教員に対しては、基本的な事項を何度も粘り強く指導し、規範意識の醸成に努めた。また、日頃の通常業務、私費会計処理、入学者選抜業務の事故防止については、不祥事ゼロプログラムに沿って、各担当者を中心とした協力体制が十分に機能し、適切に行うことができた。

令和3年度については、令和2年度を取組を一層充実させ、教職員のさらなる意識啓発に努めるとともに、本校から不祥事を絶対に出さないという強い意志を持ち、全職員一丸となって不祥事防止に全力で取り組む所存である。